

疾患別サーベイランスの考え方 淋菌感染症（素案）

2012.1.27.

(1)淋菌感染症

(2)中期的な疾患被害のコントロールと薬剤耐性淋菌拡大コントロール

(3)必要性：淋菌感染症は蔓延しており根絶は困難であるとともに、一般的なアウトブレイク対応も行われておらず中期的な疾患被害の減少が目的である。淋菌感染症は、急性発症し特に男性性器感染の場合に発症率が高く、性交渉によって感染する疾患を代表して、そのリスクを中長期的に把握し対策に活かす事ができる。我が国では薬剤耐性淋菌の頻度が高く、その動向把握と（アウトブレイク対応および）治療への反映が必要である。

(4)淋菌感染症は口腔感染が多く、伝播に大きく寄与していると推定されるがその把握が十分できていない。定義の周知とともに定点医療機関に加えた場合の有用性等を検討すべきである。定点報告疾患であるが、定点医療機関の設定方針が不明確であるとともに徹底されておらず、都道府県での活用が十分でない。その理由として、動向調査結果の疾患流行に対する代表性に疑問が持つ関係者が多い。定点の適切な設定によって地域代表性を高めるとともにその信頼性の周知によって対策への活用を高める必要がある。

性感染症には注意報、警報の設定が現在無いが、対策として重要な市民や医療、教育施設への周知のためには考慮すべきである。一方、定点医療機関がカバーする人口および地理的範囲が都道府県によって大きく異なるため、レベル設定の検討が必要である。

淋菌感染症のアウトブレイク報告は世界的に見られず、蔓延状態にあると思われるため、中期的対策活用が優先される。

我が国では薬剤耐性淋菌の頻度が高く、その動向把握と治療への反映が必要であるが、病原体サーベイランスの対象となっていない。薬剤耐性淋菌の動向把握は、詳細情報が必要で目的別サーベイランスとして行う事が適当だがその結果活用の為には性感染症サーベイランスの一環としての還元が望ましい。

(5)必要なサーベイランスのタイプ

1)定点サーベイランス

- ①目的：地域ごとの性年代別流行動向を把握する。
- ②デザイン：診断数の多い定点医療機関からの性、年代別月別報告

2)病原体サーベイランス

- ①目的：耐性菌頻度の動向と新たな耐性菌出現の把握
- ②サンプリング 都市部の診断数の多い医療機関から患者情報を伴う検体収集を研究として実施

(6)症例定義

定義は現行通り（淋菌による性感染症）、臨床的特徴の咽頭や直腸感染での特徴を増やす。

(7)必要な報告データ

性、年代別診断数の月別報告、（咽頭と性器とを分けるか？）

(8)想定される集計方法、解析と評価方法

過去のトレンドとの比較および性、年代、地域別の比較、（性器感染と咽頭感染との比較）

(9)アセスメントと対応、具体的なアクションへのリンク 性、年代、地域別の性感染症リスクを比較し周知する。年、月単位の動向を周知する。両者を対策担当行政組織（公衆衛生、教育、警察）に伝える。薬剤耐性淋菌の動向は医療機関に周知する。

(10)サーベイランス評価のための指標

定点医療機関からの報告数の都道府県および保健所単位での分布（報告の指標）

サーベイランス結果還元でのコメント付与割合の推移（還元の指標）

疾患別サーベイランスの考え方 サーベイランス目的に関する検討

■性感染症全体にかかるサーベイランスの目標

- ・ 全ての上位目標は、疾患負荷の減少。他のサーベイランスでは、ただ見ているだけ、というサーベイランスが多いので、上位目標の「疾患負荷の減少」は明記した方がいい。これとは別に疾患特異的な目標を設ける。
- ・ 各目標以外に性感染症としての総合的な目標があってもいい。
- ・ 行動変容が最も有効な対策である感染症。しかし、逆に有効な行動変容が行えていない（対策が困難ともいえる）
- ・ 性感染症は重複感染が多いのが特徴ではないか？
- ・ かつ、長期の感染期間があることも特徴。
- ・ 予防指針に書かれている疾患（定点把握 4 疾患および梅毒）だけではだめという事。

■HIV：死亡の減少（早期診断と治療）、爆発的拡大の抑制（伝播経路別対策による）

- ・ WHO 的に言うと、ハイリスク群から一般人口に広げないという内容が多い。
- ・ phase によって目標が変わるので、明記すると融通が利かない。
- ・ 疾病負荷の減少入れた方がいい。
- ・ 「戦略」はどこでも 5 年としていることが多い。
- ・ 5 年だと HIV は減少するだろうか？
- ・ 医療費で考えるなら今後増加するが、経済的な意味も含めた「疾患負荷の減少」
- ・ お金の使い道を理解してもらえる内容にすべき。
- ・ MSM に言及すべきか？、薬物使用者は日本では少ないが、これも述べるべきか？
- ・ 「爆発的拡大の抑制」→「MSM における拡大の抑制」

■梅毒：アウトブレイクの抑制（MSM における抑制拡大）、先天梅毒の根絶

- ・MSM を書き込む必要があるか？
- ・活動計画と対策目標とはちがう。
- ・「アウトブレイクの抑制」→「伝播の抑制」

■淋菌：中期的な疾患負荷の減少と薬剤耐性淋菌拡大のコントロール

- ・「中長期的な疾患負荷の減少」→「伝播の抑制」

■性器クラミジア

- ・伝播の抑制、若年層における感染の抑制、女性における合併症の減少
- ・目的としては「若年層」→「女性」でなく、「女性」→「若年層」の順ではないか？
- ・少子化対策を強調するなら、「女性」が先ではないか？

■性器ヘルペス

- ・先天ヘルペスに絡める？
- ・疾患としては生涯感染のための QOL 低下・経済的損失が問題となっている。
- ・再発の抑制、生涯にわたる再発とパートナーへの感染及びその不安の減少

■尖圭コンジローマ

- ・疾患特異的目標はなさそう。ワクチン対策（ガーダシル）の有効性評価に使える可能性はある。
- ・現時点では、サーベイランスの目的がよくわからない。